

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274201702		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街東新田		
所在地	静岡県駿河区東新田四丁目16番2号		
自己評価作成日	平成26年7月31日	評価結果市町村受理日	平成26年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274201702-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274201702-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年9月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

その人らしく生活を過ごしていただけるよう、一人、一人の個別ケア対応を図り、温かなぬくもりある環境づくり、医療との連携、毎月のイベント行事に力を入れ、スタッフ、利用者様、ご家族様とのコミュニケーションを深め、施設全体のモチベーションアップ向上に取り組んでおります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

四月より新管理者を迎え外出支援に力を入れています。毎日の散歩に始まり買い物、夕食の他、地域で開催される『昭和の集い』に毎週出向き、充実した活動は満足感とともに夜間の安眠を誘っています。また“オープンな事業所、を指して家族へ積極的な呼びかけを継続し敬老会、クリスマス会の行事には100%の参加率を誇っています。一方、実践者研修での課題に職員全員で真摯に取り組む、発語が無かった利用者から言葉が引き出されるという嬉しい結果が得られチームケアにも結びついています。率先垂範とする管理者を中心として職員も“楽しい、嬉しい、”と感じるサービスに奮闘しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で唱和し、一日の開始前に意識を高め、メリハリをつけている。定例ミーティングで再度、確認をしている。	朝礼では理念の唱和と共に行動指針の意識づけを図っています。年度初めに立てた個人目標は台所に掲示され、周知することによってお互いが高みを目指しています。年末には振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、定期清掃の参加、近隣の方を招いたお茶会や昭和の集いの歌会等、地域行事に参加し、交流を深めている。近隣の皆様にもお気軽に立ち寄りしていただけるよう見学等、実施している。梅ジュース、紫蘇ジュース作りにも取り組んでいる。	近隣から野菜の差入れがあり事業所で作ったおはぎを届けるなど双方の交流があります。自治会主催の運動会招待や年に一度の園児訪問では手話や歌、折り紙でふれあい、充実した時間となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長様、組長様等と連絡を図りながら、運動会、お祭り、防災訓練の参加を通して認知症への理解を深めていただけるよう交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、報告、話し合いを行っている。出席される家族代表も定期的に他家族様と交代を図り、より良い施設整備等を築いていくために様々な意見を取り入れサービス向上に活かしていけるよう努めている。	地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族代表をメンバーとして定期開催が叶っています。地域行事のお知らせや、家族一丸となって運営をバックアップする姿勢が議事録から確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議での意見交換はあるが、日頃からの連絡を密にする関係に至っていない。地域包括センター担当者との連絡は些細な相談にも積極的に協力していただける関係を築いている。	運営推進会議へは年に一度市担当者の出席があり、地域包括支援センターからは取組みへのアドバイスのほか、動物園入場に便利な『シルバーカード』を教えてもらい積極的な外出支援へのサポートを得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部、各事業所の年間研修に組み込まれており、全ての職員が定期的に研修に参加し、身体拘束内容を正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人で定められた研修があり対象となる具体的な行為は理解しています。スピーチロックは管理者だけでなく職員もその場で注意しあう土壌ができています。精神的なゆとりが大事と考え休憩時間以外にも声をかけ合って気分転換を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例ミーティングを行い職員間で意見交換、今後の課題、反省を含め、虐待を未然に防ぐ対策をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度関係者と関わりを持ち、個々の必要性について話し合い活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に基づき十分な説明を行い、利用者や家族等が理解、納得ができたかの否かを確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本部から各事業所、利用者や家族、地域に配布する通信と施設内独自の毎月発行される便り等、運営に反映させている。	熱心な呼びかけで敬老会とクリスマス会には家族全員が集まり、外出や食事介助への協力も盛んです。行事の後にはアンケートをお願いしていますが面会も多いため日頃から忌憚ない意見が聞かれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、定例ミーティングでは全体で意見交換できる場を設け、個別に発言できる時間と場を提供している。それぞれの意見を取り入れ働きやすい環境づくりと運営に反映できるよう努めている。	職員会議では輪番で司会を受持ち、現場で共に働く仲間として率直に言い合えるため個人面談は行っていません。食費や雑費を予算内で考える職員のアイデアは豊富で、専用ノートへの記載を通じて採用されています。	小規模多機能事業所併設のスケールメリットを活かし、職員間の情報交換でさらに取組みが活性化することを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部、各事業所で定期的に人事考課に取り組む期間あり、管理者、職員の自己評価シートにて勤務状況や個々の努力、能力、適性を見出し、向上心をもって働ける環境を築いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部で質の向上アップを目指した法人内外の研修を徹底している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の意見交換や勉強会等、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に必要な時間を設け、要望を受け止める関係をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、要望を受け止める関係づくりを築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から必要とされている意見を聞き、優先する課題を見出し、他サービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を見極め、できることは見守り、必要な箇所は支援しながら共有の時間を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の情報を共有、交換しながら支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日、敬老会、家族会等、家族やイベント行事開催によりこれまでの生活を大切にし馴染みの関係を途切れないよう努めている。	まずは家族との関係が途切れないよう面会や外出、行事へ足を運んでもらうことに力を入れています。炊事や畑仕事、通い慣れた美容院の継続や行きつけのコーヒー店に教え子と通う支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士が関わりを持てるよう努めている。コミュニケーションが取れない利用者の方には雰囲気馴染める環境を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの関係を断ち切ることなく適宜に相談援助を行っている。必要に応じて経過フォロー対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で意思を伝えることが困難な利用者には表情やしぐさ等を汲みとり、できる限り本人の希望や意向を把握できるよう努めている。	実践者研修での課題をチームで共有し発語のなかった利用者から言葉を得た喜びは、個々の関わり方の再認識となり想いを表出できるやすらぎの時間や場所がどこであるかを探っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの自宅での様子、以前の利用状況等、本人、家族、ケアマネージャー、他サービスを通じ、関わりをもち経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身体状態観察、一日の活動リズム等、注意深く観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主担当者を決め、一人だけの観察だけでなく複数の担当者の観察や情報を収集し、家族や多職種間で現状や要望を話し合いの場を設け、様々な意見を取り入れた介護計画を作成しています。	本人が望む暮らしのために必要な援助が標準化できるよう、ミーティングでの職員全員の意見と日頃顔を合わせる機会も多く現状把握も容易な家族の要望をもとに計画作成担当者が作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ごとの記録表に記入し、常に気づいたこと、様子等、職員間で情報提供している。ミーティング等で見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応ができるよう本人、家族の状況や要望を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、安全で楽しい生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望されるかかりつけ医に定期受診依頼している。緊急時、総合病院の受け入れと訪問診療が入ったことで医療との環境が向上している。	在宅の頃からのかかりつけ医を継続している人もいます。協力医である近くの総合病院では緊急時の受け入れも可能で、往診医師、地域支援の看護師もいるため心強いバックアップが得られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の訪問時には些細な変化も記録、口頭により伝達し、必要に応じ、受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、往診医師との密な連絡、相談し合い医療関係の連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設において、できる限りの終末期ケア対応に努めています。本人、家族、地域、医療との連携を図り、チーム全体で支援にとりくみながら、終末期、重度化された状況の方への支援を受け入れています。	契約時には事業所としてできないことを口頭で説明して家族の同意を得ています。それぞれ緊急時の搬送病院も決まっており、また現在対象となる利用者もいないため、今後の体制をじっくり整えていく段階にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本部、施設研修等を通じ、定期的な学習と訓練を実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練では消火器の使い方、通報方法、搬送タンク、消防署職員の指導を仰ぎ実施しています。地域住民、家族の方にも防災についての理解と知識を深めていただけるよう参加の呼びかけを行っている。夜間想定訓練も含む。	併設事業所と合同で実施しています。積み重ねが大事であり非常階段からの避難と消火訓練は利用者も一緒に行い、救急救命訓練には近隣や家族の立ち合いがありました。防災センターも見学予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部、外部の接遇マナー研修に参加し、利用者に誇りやプライバシーをもった対応をしている。名前の呼び方や入浴や排せつ等、同性を希望する場合の対応も心がけている。	内外の研修で学び、また一人ひとりの生活歴を考慮し、場面に応じた言葉かけができるよう話合っています。入浴で同性介助の希望がある場合は勤務シフトを変更して対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけ、誘導により、本人の希望される思いを引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活パターンを把握し、その人らしく生活が継続できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を優先し、好みの洋服や髪形等、選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意欲や希望により食事の準備、後片付け等、共に行っている。	調理を自分の仕事として台所に立つ利用者の姿があり、来客に手作りのしそジュースやおやつを勧める様子は豊富な食の楽しみがあることを示唆しています。ミキサー、ムース、その人に合った形態で提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事形態に応じた対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の確認はスタッフと共に行い、必要時、往診歯科を導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位困難な利用者に対し、職員2人でトイレ誘導、介助を行い、排尿、排便できるよう対応しています。	チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握しています。関わりを深めたことでオムツだった人もトイレでの排泄が可能になり、日に日に元気になる様子を見て家族からも喜ばれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食物、水分補給を通じ、自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤の使用、利用者の作品を提示し、入浴の楽しさを含め、本人の体調や希望に沿って支援している。	皮膚疾患や内出血の身体観察もあわせ一日おきの入浴としていますが、暑い時季は「汗をかいたから入りたい」という希望に応えています。緑、青、紫といった色とりどりの入浴剤が好評です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを考慮し、安心、安全な環境を支援することにより気持ちよく安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明書を保管、管理し、服薬状況を理解と症状の変化確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にしたり、個々の得意なことを見出し、気分転換を図りながら役割、楽しみごとを図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望、家族希望の意向を受け入れながら施設内のイベント行事、家族とバスツアー旅行を企画し、皆で普段、外出できない場所等、楽しみ、協力しながら出かけられるよう外出支援に努めている。	朝夕の散歩は欠かさず、食材の買い出しをはじめお花見、海浜公園、ぶどう狩りと季節感を味わうため積極的に外出し家族も協力的です。3ヶ月交代で担当職員が立案し、本年は初のバス旅行に20名以上の参加希望があります。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭の所持は控えていただいている。外出時、職員管理のもと、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向により電話の取次ぎは可能である。電話のほか、手紙を書くことも促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気、季節感を取り入れた掲示物により居心地よく過ごせる空間づくりに取り組んでいる。	2ヶ月ごと壁面制作に取組みコスモスを模った折り紙はお花畑のようで圧巻でした。昭和の懐かしい写真は回想を促し和やかな雰囲気にも包まれています。利用者が手に取りやすい場所に掃除用具が掛けられ日常的な使用を示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員のフォローのもと、落ち着いた環境の中に過ごせるよう居場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を最優先し、いつまでも安心して過ごせるよう支援している。個々に必要としている介護品もそれぞれの利用者に合わせた対応に努めている。	クローゼット、エアコン、カーテンが備えつけで布団の上げ下げをしたい人には簡易畳を敷いています。人形、写真、表彰状と、想いおもいの物が持ち込まれ布団干しとワックスがけで清潔が保持されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全、自立の生活が送れるよう個々の対応に努めています。		